

捕獲等事業評価シート
様式

(新潟県 環境局環境対策課自然共生室)

評価シート（二ホンジカ）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

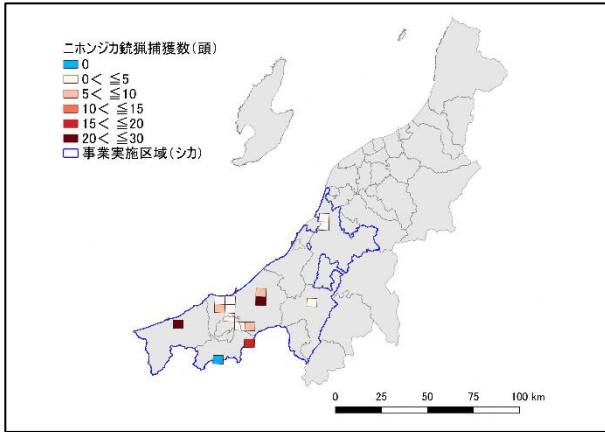
事業実施地域	柏崎市、上越市、妙高市、糸魚川市、十日町市、津南町、長岡市
事業主体	新潟県 環境局環境対策課自然共生室
事業実施期間	令和7年9月1日～令和8年3月23日
捕獲手法	銃猟
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	1,499,080円

(※) 捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

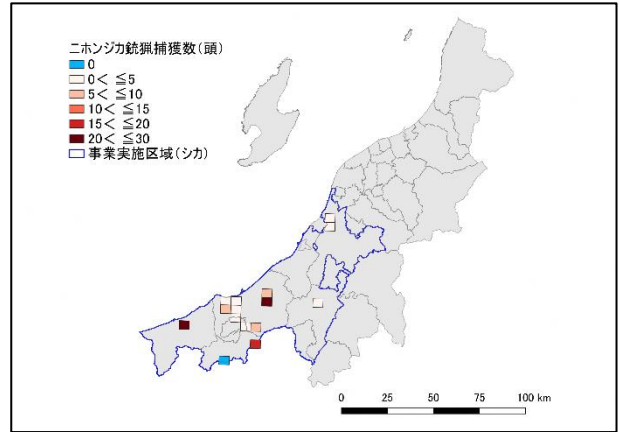
■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 40 頭	115 頭	捕獲目標の達成率は 287.5% で、目標を大きく超える捕獲ができた。
捕獲作業量	70 人日以上	276 人日	計画を大きく超える作業量を投じることとなった。
効率的な捕獲	令和 6 年度事業実績 捕獲効率：0.21 頭/人日	捕獲効率：0.42 頭/人日	捕獲効率は令和 6 年度と比較して大きく上昇した。
事業に要した人員数			
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、焼却処分又は埋設処分する。	提出した計画に沿って作業を行った。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・可能な限り非鉛弾を使用するよう努めることとする。	提出した計画に沿って作業を行った。	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	令和 6 年度事業実績 オス 28 頭、メス 26 頭 成獣 54 頭、幼獣 0 頭	オス 83 頭、メス 32 頭 成獣 115 頭、幼獣 0 頭	メスの割合が減少した (48.1%→27.8%)。令和 6 年度と捕獲実施場所や時期は大きく変わっていないため、積雪などの気候条件により雄雌の行動範囲が異なった影響によるものと考えられる。

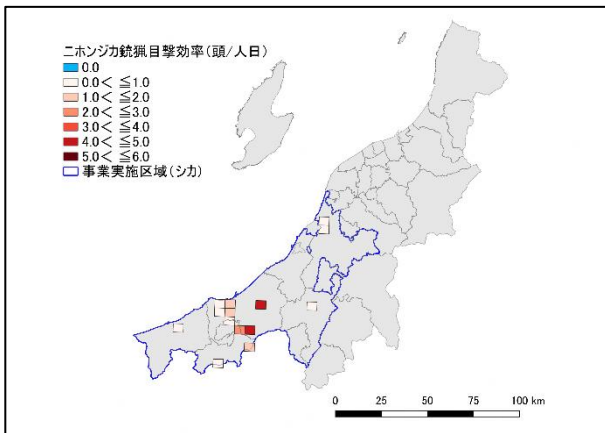
- 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 kmメッシュ地図/1 kmメッシュ地図）
 - ・ 捕獲数とその位置を落とした図（必須）
 - ・ 捕獲開始経過日数と捕獲数の関係の図（いつ頃どれくらい捕獲できたかが分かる）、CPUE（単位努力量あたりの捕獲数）の推移
 - ・ SPUE（単位努力量あたりの目撃数）の地図



捕獲数



捕獲効率



目撃効率

STEP 2 捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

柏崎市、上越市、妙高市、糸魚川市、十日町市、津南町、長岡市

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・捕獲効率、目撃効率 11月から12月の捕獲効率は0.20頭/人日、目撃効率は0.46頭/人日
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・捕獲効率、目撃効率 1月から2月の捕獲効率は0.55頭/人日、目撃効率は0.88頭/人日
評価	・捕獲効率、目撃効率は後半に値が上昇しているが、積雪により追跡しやすくなったことが大きな要因となっていると考えられることから、密度変化の評価は難しい。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	
事業実施後もしくは事業終盤・後半	
評価	単年度での評価は難しいため、今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を測定する。

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

- ・ 出没（密度）の比較図
（例：センサーカメラ毎の撮影頻度の表・グラフ・地図化したもの、痕跡の多寡の地図、SPUE や CPUE の図 等）
- ・ 被害の比較表・図や比較写真
（例：アンケート調査結果の比較表、植生被害に関する比較図、定点での比較写真 等）

期間別銃猟捕獲効率

項目	前半	後半
捕獲数	9	106
出猟人日数	44	232
捕獲効率	0.20	0.46

期間別銃猟目撃効率

項目	前半	後半
目撃数	24	204
出猟人日数	44	232
目撃効率	0.55	0.88

※ 前半：10月から12月、後半：1月から2月

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	<p>評価： 目標 40 頭に対し、捕獲実績は 115 頭で目標達成率は 287.5%であった。捕獲実績が目標を大きく上回ることができた要因としては、1 月以降の積雪期を中心に効率的に捕獲できたことが考えられる。</p> <p>改善点： 今後も捕獲効率の高い時期や調査場所を選定し捕獲を実施することで効率的な捕獲が可能であると考えられる。</p>
【実施期間】	<p>評価： 積雪期を中心に実施することで効率的な捕獲を行うことができた。</p> <p>改善点： 特になし。</p>
【実施位置】	<p>評価： 過年度事業で捕獲実績のある場所を中心に実施することで効率的な捕獲ができた。</p> <p>改善点： 今後も捕獲実績やモニタリング結果を参照して効率的な捕獲ができる場所で実施する。</p>
【捕獲手法】	<p>評価： 実施場所の環境や生息状況に応じて巻き狩りや忍び猟を選択し、効率的な捕獲が実施できた。</p> <p>改善点： 特になし。</p>
【捕獲コスト】	<p>評価： 出猟人数は計画を大きく超えているが、その分捕獲実績も上積みできたため、労力に対する捕獲数の計画は適切だったと考えられる。</p> <p>改善点： 今後も過年度の実績などを参考に適切な捕獲努力量を設定する。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価： 銃猟は 2 名以上で実施し安全に配慮した。</p> <p>改善点： 引き続き、安全に配慮した体制を構築する。</p>
【個体処分】	<p>評価： 個体処分の方法は自家消費 111 頭、埋没 4 頭で、食用への利用率は 96.5%だった。</p> <p>改善点： 食用は全て自家消費のため、捕獲数が増加すると利用率は低下することが想定されるため、今後はその他の活用方法も検討していく必要がある。</p>
【環境配慮】	<p>評価： 鉛製銃弾を使用した。 錯誤捕獲は無かった。</p> <p>改善点： 今後も錯誤捕獲の防止措置を徹底し、非鉛製銃弾の使用を促す。</p>
【安全管理】	<p>評価： 実施計画、安全管理規定に基づき、事故防止の徹底を図った結果、苦情や人身事故等の重大事故は発生しなかった。</p>

	改善点： 引き続き、安全管理規定の遵守を徹底する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点 関係法令を遵守し適切に事業を実施した。	
4. 全体評価 捕獲目標に対し 287.5%の捕獲を達成することができた。過年度事業で捕獲実績のある比較的定着が進んでいる場所で捕獲を行うことで、効率的な捕獲ができたことが要因の一つと考えられる。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	第二期新潟県ニホンジカ管理計画では、管理目標として以下を定めている。 （１）令和 8 年度末に推定個体数を 3,000 頭程度にする （２）農林業被害の軽減 管理目標の中で、ニホンジカの生息数をこれ以上増加させないことが示されており、生息域の拡大や生息数の増加が確認されている地域で指定管理鳥獣捕獲等事業を実施することとしている。
寄与状況の評価	本事業の捕獲数は 115 頭で、令和 6 年度の総捕獲数 1,120 頭の約 10%にあたる。全体の捕獲数に占める割合は小さいものの、比較的定着が進んでいる地域で捕獲を行い、ニホンジカの生息密度の低下に貢献していると考えられる。 一方で、今年度事業による被害や生息密度の減少などの効果を十分にモニタリングできていないことや、過年度のセンサーカメラ調査などの結果から生息密度の減少の傾向がみられないことから、ニホンジカの生息数減少に至っていない可能性がある。そのため、引き続き高い捕獲圧を与えることで個体数を減少させ、第二種特定鳥獣管理計画で定めるニホンジカの管理目標の達成につなげることが重要である。